序文の事 金杯先生ならびに佐藤氏 其他養蚕の帰
諸境へより〳〵 之時伺書

山中多雨出るる列かつて ちのうきくるは罰なる様
只樂〳〵さは都すりの土産ふ伝ふ内世間隔
接〳〵 此何ぶりの喜ばし 今朝 芳書を
拝誦仕り候 幾度か繰返して

毎日陽通ふ雨されば候ふ乳 度毎に嬉しく
事と存じ候 鼓膜抽出法 四月廿日市八候の由 小弟
存じ候ふは 拍動るべくは 冷風のたちてよりの方よろしき
様思はれ候 創の痛苦も如ぶ 酸暑の頃は 病気勝
苦痛を動じ 抽出法とは 打ち 畠中 ふ管を
入れそれより 空気を吹入れ候 法 小弟の試 候は
右の法 抽出の結果は 至極よろ き様 存候
新聞 郵送の件 詳 難有 市内 意深く 拝受 候
されど 当地 幸ひ 進新聞 愛読の人 少 候て
それより 伺 候 間 少 智を学ぶ 候
時 知る 候はもが 当地の 脱 実よろ 候
近海 近くは 回 海 の 砂 候 遠く 海の嶋の
三ヶ山を立割りて 山 彩の 海 出る 候
湯の臭気 は恐れ候べ 空気 清きは 経すべく 虫声
賞詩 みを 響き 蝶の 菜 花 ふ 歳る、 百日紅 蝉 特 の 愚る
皆 緑草 青葉の間 点 すれば 色の配合 極めて 面白く 白きは
山 ふ 鈴鐘草 巫 婦人の服装 涼 候
為 暑 畑山 消 人の声 ふ
暑 候 近 湯 花 行 笛 堤 行 硫黄 山 行 浦 水 像 遊 歩 す
ツモリ 候 候
秋 学 ふ 世 症 心 ふ 候 ふ 蚊 蝿 も 静 ふ ふ し
居り 候 さ ば く 休 筆 候 候 飽 ふ ト ン チ ン カ ン 相 成 り
知る 困り 候
いつれ 世 用 珍 事 多 候 は バ 出 嘉 気 ひ 候
先 生 面 立 て ふ 絶 り ふ る 蝉 さ る か く ふ 候 ひ 日 て
十 る

二ヶ山先生 侍

東京本郷区南佐久間町
三丁目十七番地
三ヶ山蘭堂様

柏州函根芦の湯
吉田屋